

私達も以前から武庫川水系河川整備計画で  
武庫川の建設 などの色々の案が出ていることは  
存じておりました。遂目してまいりました。

平成二十二年一月二十七日付読売新聞で知りまして  
「心」の方は中止とあることで事を進めて行かれること  
になりました。

その方面から私達の意見も参考にしていただき  
ばと思ひおして筆をなしました。

世界的に発生してあります大洪水の事故は昔とは  
おそろしき地獄の地獄そのまゝ。崩れる山。根切が流れる  
森林。等々としての画面を見ても心が驚かしているところ  
であります。生半可な工事なると心流す所です。

氷河時代から熱の時代へと移り変わるこの時代。  
洪水とは、水の力は何百倍にもなるものになります。  
武庫川も昔から恐ろしい河川です。

そこで私達も提案をさせていただかれます。

① 河川敷にある公園を取り除き川本来の姿にする。  
川底も掘り下げない。堤防の強化。これが最初の仕事です。

② 河川は曲りくねっている。今の河川は堤防が水で  
根切を掘り削られる。二重堤防にする。

③ 河川の真ん中に杭を打ち込んで堤防を作る  
この工事は大量の鉄釘と水を分散させた水の圧力を  
押えられる

(A)

②③は別紙で図面を作らせてもらいました。

私の母屋は滋賀県愛知郡として一級河川で愛知川と  
愛知川が御事、私の子供のころ親から水の恐ろしさ  
いつも聞かされて来ました。明治時代に大雨で  
愛知川村から下の服部村へかけて堤防が決壊して  
それ以外の村や墓場まで根柢を流されてしまった  
のです。新しく堤防を建設するに当り、新しく考え  
出したのが三重堤防で、川底にあるサカサバの石を  
村へ集めておき集めて、太い針金を編み上げた壊れ  
にくい石を詰め込み堤防にもたせかけた。今もその  
崩れることなく堤防を守っています。

平成二年九月十九日 滋賀県東近江市能登川町  
鈴鹿山脈を東北へ台風十九号が通過。湖東三山は  
大雨で愛知川が氾濫するやうな水は危険だと  
なると放水してしまった。もしたら愛知川の川下の  
能登川町側の堤防が根柢を流れて、堤防の近くは  
あるある工場の従業員の数千人が避難したのを  
(駐車場)

平成五年七月二十日

神戸市灘区の川で遊んでいた子供三人と大人二人計  
五名が鉄砲水で流され死亡。今、色んな防止策を作  
るが水が保証出来る川ではありせん。甚屋川も  
夙川も危険です。

(B) 川にある公園は梅や桜の障害物です。

この公園があることにより堤防を越えて市街地に流水  
のみ大変なことになるです。

JR神戸線から国道四十五号線の間は一番危険です。

何にも備らな<sup>い</sup>識者の方々にお願いして利害のある  
人物で構成して実行していただきたいと思います。

ご対応申し添えのほどです。

洪水から人間を守ることを重要視し 魚も虫も鳥も  
住めるように河川にしていただきたいと思います。

以上をよろしくお願い致します。

ありがとうございます。

平成二十二年二月二十五日

〒650-8567

神戸市中央区下山通

5-10-1

兵庫県庁内

企画調整課

武庫川流域委員会 様

西宮市芸術文化委員会

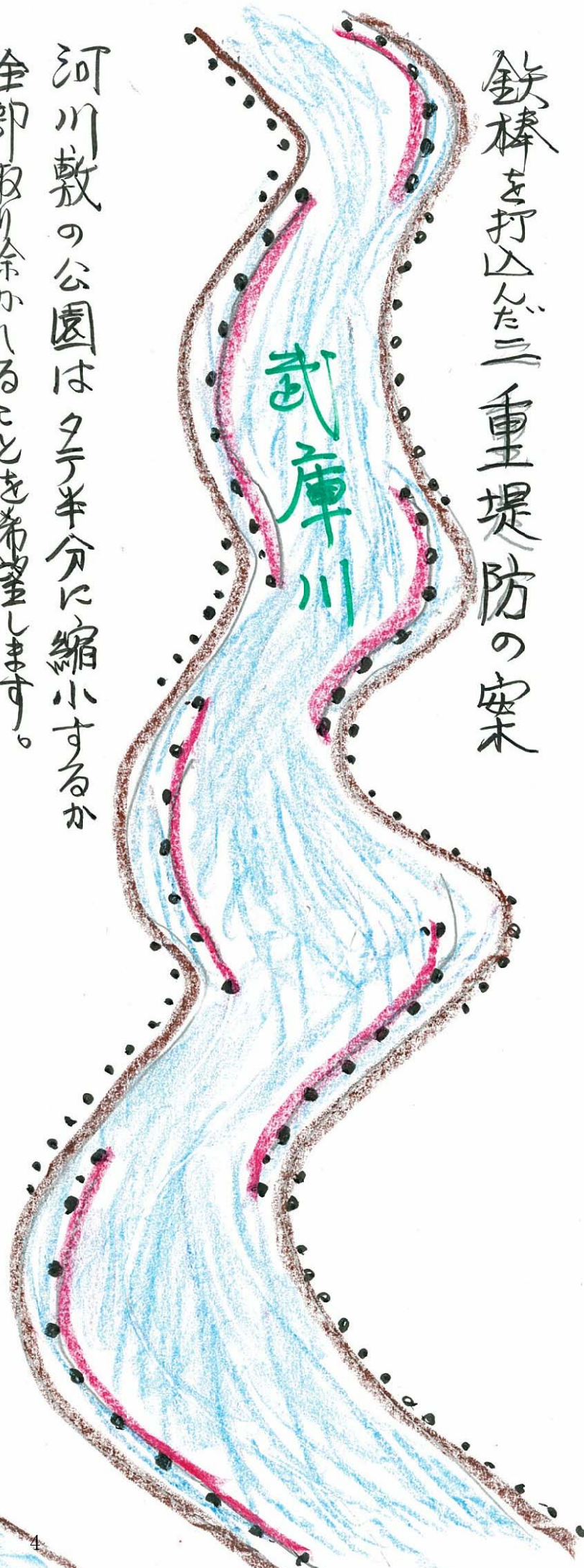
西宮市

西居太郎

75才

(c)

鉄棒を打込んだ三重堤防の案



河川敷の公園はタテ半分に縮小するか  
全部取り除かれることを希望します。

河川のセンターに鉄棒を打ち込んで堤防の案



武庫川の安全安心対策

武庫川流域委員会委員長 松本誠 様

「整備計画」についての意見

2010年2月27日 西宮市 奥川和三郎

(1) 潮止堰を廃止して、流量を増やし、アユの生息、遡上する武庫川づくり、環境づくりの計画の、実現を期待する。河口・築堤区間の潮止堰、床止工の撤去、改造をして、流量を増やし、計画流量3200トンにして、河道対策、川床掘削や、堤防の安全対策等の治水対策にはおおむね賛同する。

2006年、基本方針討議では潮止堰撤去を兵庫県は頑強に拒否して、とりいれなかった。しかし、築堤区間の流量を増やす施策として潮止堰撤去を今回取り入れた。「武庫川溪谷にダムありき」の自縄自縛からの解放、築堤区間の現実的治水対策研究の結果にあると思う。ダムの計画推進のために出口の流量は小さいほうがよい。基本方針討議のさい、武庫川下流の計画での流下能力は、毎秒2500トンしかないというものであった。平成16年23号台風では計画水位よりも1Mも低い水位で2900トン流れたという報告があり、事実は3千数百トン流れたとの主張もあった。その差700トン(3200トン-2500トン)はダム1個分に相当すると当時我々は述べた。整備計画・20年計画では3200トンの河道分担流量(3200トン-2500トン=700トン)にすれば、流量は増大するし、ダムは要らない。基本方針の基本高水流量の再検討もできるのではないか。

(2) 武庫川流域の特徴は山から三田盆地へ、そして武庫川溪谷から阪神間の平野へと二段階の流れをして海へ注ぐ。基本方針の基本高水流量4700トンは雨量からの複雑な計算(ハイドログラフ)でできた。20年計画でだされた目標流量3510トンも、現実には、三田では氾濫したが、下流では氾濫はしていない。百年に1度の洪水ともなれば、基準点甲武橋に来るまでに上流流域は大氾濫するだろう。上流での開発抑制とともに、ポイントごとの流量に基づき安全体策を、流域の特性に応じて住民にわかりやすく示し、住民参加の積極的な流域体策を行うべきであると思う。

(3) 兵庫県知事は、産経新聞によるとダム必要性を述べている。

しかし、ダムは、

- ① 根本的欠陥として超過洪水に対応できない。
- ② 致命的欠陥として、環境を破壊し、かつ、時間がかかり、経費が莫大。
- ③ 構造的欠陥としては、ダムに頼れない。(新潟洪水、淡路水害)。

熊本県の荒瀬ダムは55年で土砂が埋まって知事が撤去を2012年から開始する。北海道二風谷ダムは100年計画ダムが5年で埋まりサケの遡上を壊し、土地収容違反の違法ダムとして残骸をさらしている。ダムの安全神話は通用しない。21世紀末はダム廃棄の世紀になるかもしれないのです。以上

奥川和三郎  
西宮市

2010年3月1日

武庫川流域委員会  
委員長 松本誠様

千代延明憲

### 財政面からも実現可能性 100%を目指す河川整備計画を ～ 新規ダムの検討継続の整備計画への位置づけは不適切 ～

97年の河川法改正により、それまでの工事实施基本計画は、長期目標を掲げる河川整備基本方針と20～30年で実現を目指す河川整備計画に分離して策定することになりました。河川整備計画に求められる重要な要素は、「一定期間内における計画の実現」です。その実現可能性を大きく左右するのが財政上の裏付けです。

さて、先般河川管理者から提示された武庫川水系河川整備計画原案（以下原案という）についていえば、その点はどうでしょうか。

原案の計画期間は20年、概算事業費は420億円となっています。年間平均21億円です。この概算金額は、兵庫県の過去からの予算の推移、最近の厳しい状況、県下に抱える多くの管理河川への事業費配分等を十分考慮され、妥当な金額として示されたものとして意見を述べさせていただきます。

#### 新規ダム建設検討継続の整備計画への位置づけは不適切

原案では、過去に経験したことのない大きな洪水が発生することが考えられるとして、それへの対応につき次のように記述されています。

「・・・河川整備基本方針の目標達成に向けて、さらなる洪水に対する安全度の向上が必要である。」「したがって、千苅ダムの治水活用や武庫川峡谷での新規ダム建設等について、その必要性・可能性の検討を継続し、具体的な方向性が定まった場合には、計画上の取り扱いについて検討する。」と。

この文章を素直に読みまた河川管理者の原案の説明を聞いていますと、河川管理者の意向は、原案における整備目標は戦後最大洪水（昭和36年6月27日洪水）としているが、整備期間中にこれを超える規模の洪水が発生すれば、千苅ダムの治水活用や武庫川峡谷での新規ダム建設を整備計画に追加するという姿勢表明と受け取ることができます。

しかし、仮に武庫川峡谷での新規ダム建設を計画期間中に整備計画に位置づけることになれば、その事業費は、少なくとも本原案に示されている概算事業費420億円を大きく超えることになりましょう。このことは、整備計画の実現可能性が財政面から概ね裏付けられているかという点で「不適切」と判断せざるをえません。新規ダム建設を整備計画の付録として、あるいは整備計画の余裕度の中のものとして扱うには余りに過大です。

従って私は、原案における「・・・武庫川峡谷での新規ダム建設について、その必要性・実現可能性の検討を継続し、・・・」は削除すべきであると考えます。前回提出させていた

だいた私の意見書では、新規ダムは最後の手段という位置づけにすべきであると述べましたが、整備計画はその性格からして基本方針と違い「実現可能」でなければなりません。この観点から、上述のように考えるに至りました。少なくとも流域住民は、整備計画が成案となって示されれば、その計画内容は整備計画期間の20年で確実に実施されるものと期待し、その結果整備計画見合いの治水安全度は高まると信じます。その期待を裏切ってはなりません。原案審議にあたってはこのことの重さを十分認識いただきたいと考えます。

なお、超過洪水への対応については、治水の最大の目標は人の命を守ることにありますから、少なくとも破堤までに逃げる時間的余裕を与える「破堤しにくい、しぶとい堤防」にしておくことが肝要です。それを可能にするのが、「築堤区間の計画高水位より上の堤防強化」です。整備目標を超える洪水、さらには基本方針における基本高水流量を超える洪水すらいつ生起するかわからない自然相手の対策である故、「築堤区間の計画高水位より上の堤防強化」を本整備計画の中に是非盛り込んでいただくよう重ねて要望します。そのために、原案審議中に前述の「堤防強化」の概算事業費を、河川管理者に算定いただいて審議を深めていただくようお願い致します。

#### 千苺ダムの治水活用について

この件も前回の意見書で触れていますが、千苺ダムの治水活用についての河川管理者の検討結果を早急に明らかにさせていただきたいと考えます。

明らかにしていただきたい点の一つは、千苺ダムの貯水容量を全部はともかく一部でも、治水活用の可能性があるか否かという点です。よくある利水者の観念的異常渇水を想定した利水の安全、安心でなく、社会通念上の客観的視点からの可能性についてお願いします。

もう一点は、治水活用が可能との判断が出た場合、治水活用に要する概算事業費がどのくらいかを河川管理者から提示いただきたいと考えます。

その上で、交渉相手のあることも踏まえて、原案審議中に整備計画に位置付けるかどうか結論付けていただくよう要望致します。

以 上